

## <授業実践2>「季語をつくる」(言語文化 第1学年 2学期)

### 1 実践にいたる背景

「現代の国語」の実践と同一の近代以降の文章を取り上げ、「言語文化」が重点を置く「読むこと」の領域において授業づくりの一例を示したい。生徒の言葉に対する見方は、表面的な認識にとどまり、本来的な意味や内容と関連付けて学ぶことができていない。そこで、破格ではあるが、季語をつくることで言葉に対する理解を深め、言葉に対する新たな見方を獲得させたいと考え、本実践を設定した。

### 2 指導目標

#### (1) 単元の目標 (下線部: 関連する学習指導要領の指導事項)

・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。(〔知識及び技能〕(1)ア)

・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。(〔思考力、判断力、表現力等〕B読むこと(1)オ)

#### (2) 言語活動

##### ア 言語活動

季語をつくる

##### イ 言語活動のねらい

季語には、伝統的なものの見方や感性が込められている。五感を手がかりに季節の言葉を探しながら、季語をつくる取組によって、季語に内包されている世界の豊かさに触れ、言葉に対する感覚を研ぎ澄まし、新たなものの見方、感じ方を獲得させたい。

#### (3) 教材

ア 教材 「季節の言葉と出会う」黛まどか(『新編国語総合』大修館書店)

##### イ 教材観

本教材では、「うつろい」を好み、敏感に感じ取るのは日本人の感性の表れであるとし、季語を知ることによって伝統的な美意識を知り、新しいものの見方ができるようになると述べている。そのため、生徒の言葉に対する感覚を磨き、言葉に対して新たな見方をさせるのに適した教材である。

#### (4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

取り組みたいと思える言語活動にするために、既存の季語を使うのではなく生徒が季節を感じる自作の季語をつくることとした。自分の考えを大切にしながら、グループでの話し合いで新たな気付きを得られるようにし、複数の考えの共通点と相違点を探り、更に展開した問いを考えさせることで、季語づくりで生徒が得た知識を活用し、関連付けながら、考えを発展することができるよう心がけた。

### 3 評価

#### (1) 単元の具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現(読む能力)	主体的に学習に取り組む態度
言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	積極的に、言葉に対して深く考えをめぐらせ、学習課題に沿って、季語をつくり、季語のもつ言葉の奥行について説明しようとしている。

## (2) 評価方法

### ア 知識・技能

ワークシートの記述によって評価する。

### イ 思考・判断・表現（読む能力）

ワークシートの季語と説明文の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
自分のものの感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもつ。	つくった季語や説明文に，個人のものの方，感じ方が反映されており，伝統的に言葉に内包される世界があるという普遍的な価値観に気付いている。	つくった季語や説明文に，それまでの自己の体験を通した個人のものの方，感じ方が反映されており，どのような意図でつくったのか説明ができています。	自分なりに季節を意識した季語をつくり，その説明文が書けている。

### ウ 主体的に学習に取り組む態度

行動の観察，ワークシートの振り返りや季語，説明文の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
ワークシートの振り返りと次の目標によって，取組を改善していく。	粘り強く取り組み，学習を自己調整することができた。	粘り強く取り組むことができた。	自らの学習について振り返りができた。

## 4 単元の指導計画（配当6時間）

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法 *努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第1次（2時間）	①本文を音読する。 ②内容を読解する。	①語句の意味や読みについて確認させる。 ②発問しながら内容をまとめさせる。	◇知識・技能 ◇思考・判断・表現 ◆記述の確認（ノート） *発問について，周りの生徒と相談させる。
第2次（4時間）	①季節を感じる言葉をマッピングする。 ②季語をつくり，説明文を付ける。	①各自で記入させた後，グループで取り組ませ，イメージを広げさせる。 ②マッピングを参考に自作した季語とその説明文を書かせる。	◇思考・判断・表現 ◆記述の確認（ワークシート，マッピング） ◆行動の観察（グループの活動）

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法 *努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第2次 (4時間)	③グループ内で季語分析に取り組む。 ④季語・説明文を修正する。	③季節が感じられるか、五感が喚起されるかを確認し、お互いに疑問や意見を交流させる。 ④個人で考える時間を設け、季語分析を基に、つくった季語についてももう一度考えさせる。	*進まない班には助言する。 ◆記述の分析 ◇主体的に学習に取り組む態度 ◆記述の分析（ワークシート） ◆行動の観察（グループの活動）
	⑤修正点をグループで発表し合う。 ⑥グループでよかった季語を一つ全体で発表する。 ⑦「よい」季語についての感想を書く。 ⑧なぜ「よい」のかについて話し合う。	⑤修正したポイントをグループ内で説明させる。 ⑥理由も考えさせ、板書する。 ⑦話し合いや黒板のクラス発表の内容から考えさせる。 ⑧「よい季語に共通していることは何か」など、抽象化を促す声かけをする。	
	⑨話し合った内容を発表する。 ⑩共通点、類似点、相違点を考える。 ⑪俳句はなぜ季語を入れるのか考える。 ⑫まとめを書く。	⑨A3用紙にまとめさせ、発表後黒板に貼らせる。 ⑩黒板を見てグループで考えさせ、指名し、クラスで共有させる。 ⑪「よい季語はなぜよいのか」、その答えを発展させる。 ⑫言葉に対する見方について、気付いたことなどを記述させる。	

## 5 学習活動の実際

季語を自作するためのアイデアを出し合うために、マッピングをしたが、実際にはマッピングよりもグループで話し合うことによって着想を得ていた(資料1)。季語分析(資料2)から学ぶことが多く、言葉を見る観点が明確に与えられ、言葉に対する理解を深めることができた。「よい」季語は具体的に何が「よい」のか共通点を探ることで、言葉に対して多くの気づきを得ることができた。

## 6 研究の成果と課題

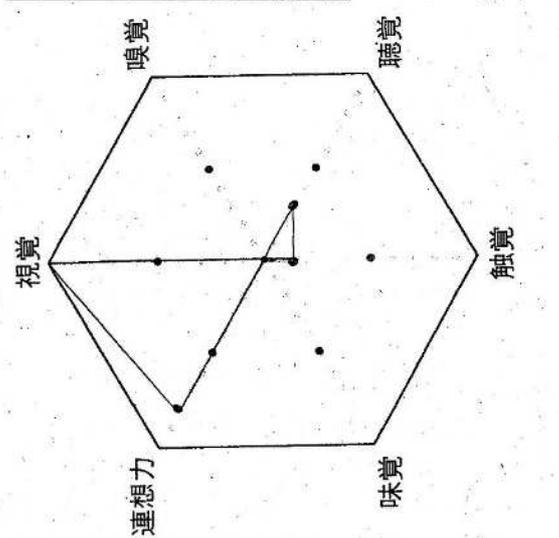
「言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること」については課題が残った。「思考・判断・表現(読む能力)」の評価をしてみると、評価Aに到達した生徒がいなかった。いかに季語が継承されているかということに気付かせたかったのだが、もう少し時間軸を意識させるような問いかけができればよかった。「主体的に学習に取り組む態度」を評価するために、振り返りシート(資

料3)を使用した。振り返りからは授業内の学びや反省を読み取ることはできたものの、まとめの記述と補完し合いながらの評価が必要だと考えた。



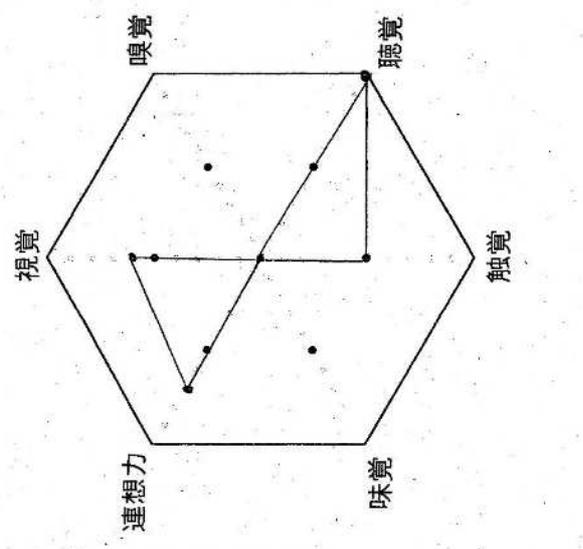
季語分析をしよう！

一年( )組( )番 氏名( )  
 ( 自分 ) さん、くんの季語  
 隊菜 季節( 秋 )



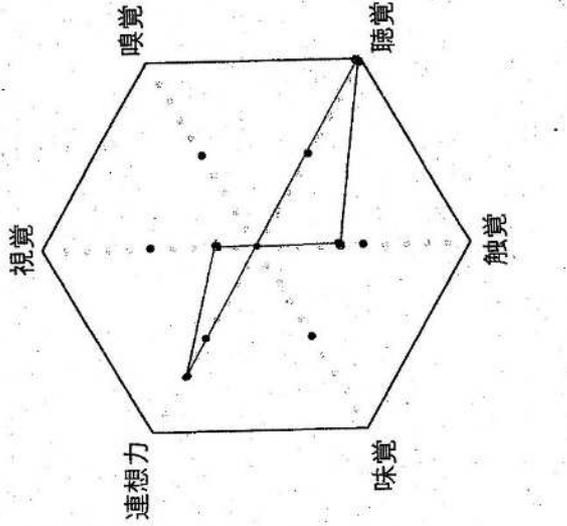
〈分かったこと、良かったこと〉  
 “隊”という言葉と「菜」は「下」の「菜」が「下」の「菜」だと思つた。  
 班の人が書いていた「視覚」の「隊」が「下」の「菜」だと思つた。  
 隊の「下」の「菜」だと思つた。「下」の「菜」だと思つた。  
 隊の「下」の「菜」だと思つた。「下」の「菜」だと思つた。

( ) さん、くんの季語  
 枯れ葉者 季節( 秋 )



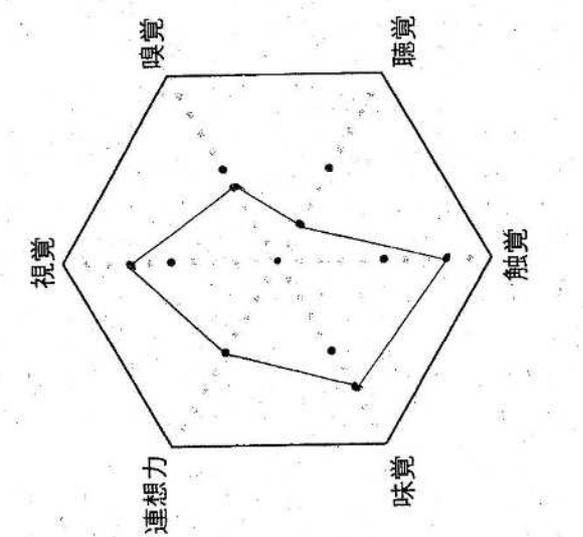
〈分かったこと、良かったこと〉  
 足元に視点を置いて、者が季節を感じるとい  
 うのがおもしろいと思つた。  
 秋といえば紅葉を想像し、枯れ葉に  
 焦点を置いて、秋を感じた。

( ) さん、( ) さんの季語  
 虫の音 季節( 秋 )



〈分かったこと、良かったこと〉  
 様々な虫の音が、秋の季節は、秋の音だと思  
 った。虫の音は、秋の音だと思つた。  
 虫の音は、秋の音だと思つた。  
 虫の音は、秋の音だと思つた。

( ) さん、( ) さんの季語  
 ほくほく 季節( 秋 )



〈分かったこと、良かったこと〉  
 “食”の“秋”が、秋の音だと思つた。  
 秋の音だと思つた。  
 秋の音だと思つた。  
 秋の音だと思つた。

